

凌霜館関係史料

■歴史資料

1) 凌霜館「新築并開場式諸費簿」(明治 15 年 12 月) 村野家文書 C-2

⇒凌霜館新築その他にかかった経費の記録、石坂公歴が盃を発注した記録あり (3) の盃か

2) 凌霜館開場式「出席簿」(明治 16 年 5 月 6 日) 村野家文書 C-3

⇒凌霜館開場式に出席した人名を確認できる

野津田村・小野路村・八王子・相原村・溝村・凶師村・豊田村・平山村・金井村・
 鎌水村・大蔵村・岡上村・小山田村、客員 計 107 名

3) 「凌霜館」銘入り盃 年代不明 当館蔵

⇒資料館敷地内、新築工事時の土砂内から職員が発見



4) 「凌霜館出席人名帳」 明治 16 年 (推定) 6 月 石坂家文書

⇒石坂襴 (陸奥) の剣術練習記録

5) 凌霜館での剣術試合を知らせる石坂昌孝の草薙鶴吉宛封筒

年月日不明 金井・草薙家文書

6) 村野常右衛門自叙文 年月日不明 村野家文書 M-15

⇒村野常右衛門が凌霜館設立までの自分の来歴を記したもの。

7) 土地台帳 明治 19 年

現自由民権資料館敷地所有者変遷

	M19年	M22年	M39年	T11年	S7年	S35年	S36年	S39年	S42年	S47年	S60年	S59年	H2年
897	1	村野栄吉	村野常右衛門	村野国三郎				村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	2							村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	3										村野順三・婉子		町田市
898	—	村野常右衛門	小林儀兵衛	村野常右衛門	村野国三郎			村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	1	村野常右衛門	小林儀兵衛	村野常右衛門	村野国三郎			村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	2												内務省
899	—							村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	1	村野常右衛門	小林儀兵衛	村野常右衛門	村野国三郎			村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	2												内務省
900	—												丸嘉十郎
	1	村野常右衛門	小林儀兵衛	村野常右衛門	村野国三郎			村野廉一			村野順三・婉子		町田市
	2												内務省
	3							村野廉一					丸嘉十郎

* 土地台帳を参考に作成。月日は省略。

- …村野常右衛門所有
- …村野栄吉所有
- …町田市への寄付
- …町田市の追加購入

⇒自由民権資料館の敷地は、野津田町 897・898・899・900 番地の大半である (一部は都道)。地目は全て「畑」。各面積は、897 番地=706 m²、898 番地=492 m²、899 番地=1010 m²、900 番地=614 m²

そのうち、明治 19 年段階で村野常右衛門が所有していた土地は 898・899・900 番地である。よって凌霜館の跡地の可能性は、898~900 番地になる (もしくは、村野栄吉の理解を得て 897 番地も活用した可能性はあるか)。

「登記簿」確認の結果、当館保管の「土地台帳」のほうが「登記簿」よりも古い情報が掲載されており、情報自体の異同はない。

8) 旧公図 年代不明

⇒各地番の土地利用が確認できる。

9) 『皇国武術英名録』明治 21 年 小田原市立図書館

⇒剣術の門人を地域ごとにまとめたもの、凌霜館に通う人名が記されている。神道無念流、野津田村を中心に、周辺村の村名が記載されているが、本籍地ではないため、寄留者は野津田村と記載されている。

10) 大須賀明殺害事件の「予審終結決定」書（明治 25 年 4 月 17 日） 村野家文書 C-34

⇒第二回総選挙後に起きた凌霜館生による殺人事件の裁判資料の一つ
凌霜館に寄留（居住）していると思われる大矢正夫が予審の対象となっているが、住所は本籍（神奈川県高坐郡坐間村栗木 3586 番地）が記されている。
凌霜館は「野津田村」としか記されておらず、所在地は確認できず
最も近い番地は村野栄吉の住所（資料館の西側数十メートルの場所、現在は駐車場）

11) 大須賀明殺害事件の「東京控訴院裁判言渡書」写（明治 25 年 11 月 26 日）大沢家文書

⇒「嘉吉栄吉運太郎ガ常ニ時事ヲ談論シ文武ヲ研究スルガ為メ集合スル凌霜館ニ至レバ」の記載あるが、番地表記はなし

12) 大須賀明殺害事件の「上告趣意書」（明治 25 年 12 月 2 日） 大沢家文書

⇒凌霜館の記載なし

13) 大須賀明殺害事件の大審院「判決書」（明治 26 年 2 月 9 日） 大沢家文書

⇒凌霜館の記載なし

14) 大須賀明殺害事件の名古屋控訴院「判決謄本」（明治 26 年 6 月 26 日）

村野家文書 C-38

⇒「被告嘉吉栄吉等ハ被告運太郎喜代次郎房吉等ハ同郷ノ青年輩ト共ニ常ニ其居住セル神奈川県南多摩郡鶴川村字野津田ニ設立セル凌霜館ニ相集リ互ニ時事ヲ談論シ文武ヲ研究シ居タル処」等の記載あるが、番地表記はなし

15) 「浮浪中凌霜館滞在日誌」（明治 25 年 11 月 11 日～25 日） 石阪家文書

⇒執筆者不明、徴兵の送別会を凌霜館で行ったなどの記事あり

16) 小菅吉蔵の河井信次郎宛宛書簡（明治 25 年 11 月 26 日） 河井家文書

⇒「御入営之由国家之為奉慶賀候右ニ付て昨廿五日盛大なる送別会凌霜館に於て御開会之趣時日石阪恩孝氏より通知有之候」の記載あるが、番地表記はなし

(8) 「浮浪中凌霜館滞在日誌」の記載と関連する史料

17) 大須賀事件関係者村野嘉吉の墓碑銘 大正 15 年春 野津田町

⇒「……貴族院議員村野常右衛門氏其ノ居村青年修養ノ為メ凌霜館ヲ設ク附近ノ青年耕余ニ相集リ講学練武大ニ志気ヲ砥砺ス……内務大臣品川彌次郎官権ヲ揮ヒ大干渉ヲ行フ君猛然起チテ民党ノ戦士トナル血氣熱烈遂ニ村内大蔵ニ殺人事件ヲ演スルニ至リ凌霜館ノ健児亦多ク連坐ス……」

18) 野津田青年会凌霜会の「決議録」 大正元年 野津田公民館文書

⇒事務所＝現在の野津田公民館（＝野津田学校跡地、明治 41 年鶴川尋常高等小学校へ統廃合のため空き家）を活動拠点としていると思われる。

大正 2 年 9 月 12 日開催の役員会の記事に「村野栄吉氏本会之為非常ナル尽力被下ル氏之斡旋ニテ凌霜館ヲ売捌キシ代金六十円ヲ本会之基本金ノ内へ頂戴致セル様尽力ヲ願フコト」とあり。（野津田青年会「凌霜会」の活動拠点が現野津田公民館に移っている、大正 2 年 9 月頃に凌霜館（建物？）が売却されたことが確認できる。

19) 渡邊欽城『三多摩政戦史料』大正 13 年

⇒渡邊は青梅の人。聞き取りなどにより明治前半の三多摩の政治運動をまとめたもの。

前後関係などの誤認が多いため、慎重な史料批判が必要。

凌霜館の紹介はあり、師範学校出身の篠原某を招き、剣術だけではなく、文にも配慮した館の運営がなされた旨の紹介がされている。所在地詳細の記載はなし。

20) 「大矢正夫自徐伝」昭和 2 年 厚木市・大矢家文書

⇒「吾が先輩、石坂、村野の両氏ハ、夙に之を慮り、余を凌霜館に寄寓せしめて、住所の安定を与へ、其の生活を資すべく、野津田学校の小使に採用せしめたり。実ハ小使の名義にて、教鞭を執らしめしなり。

大矢が大井憲太郎に宛てた書簡（明治 25 年 6 月 29 日付）に「鶴川村野津田凌霜館ニテ大矢正夫」とあり

「祝町田村文武館開館式文」と題した大矢正夫の式辞（明治 26 年 9 月下旬）の大矢の肩書きが「凌霜館主」

*途中より東京に居住する石阪昌孝の留守居として石阪邸に転居

■文献資料

21) 村野廉一・色川大吉編『村野常右衛門伝—民権家時代』私家版、昭和 44 年

「若き凌霜館長」の項目あり。「話によるとその建物は、広さ二十坪以上の道場をもつ建物で、民権家たちの謀議にも使われたという。うしろに井戸があり、絶えず竹刀などを担いだ若者たちが出入りし、この凌霜館に宿泊していたという。村野はここに青年子弟を集めて、もっぱら剣術を奨励していたが、それだけでなく師範学校出身の篠原という講師を招いて、政治学習をあわせ行なったといわれている。いま「凌霜館出席人名帳」という文書が残っているが、それを見ると、出席者は村野常右衛門、石坂公歴、村野栄吉など、鶴川の青年が主であったらしい。

22) 色川大吉「多摩歴史散歩」(『アサヒタウンズ』30号、昭和48年6月2日)

「明治15年の暮れに、当時青年自由党員だった村野常右衛門が、鶴川(現町田市野津田町)の自分の所有地内に青年たちの学習会の場として建てたものであった。そこに20坪ほどの剣道場を設けたことから、剣術もさかんにおこなわれ……」とある。

*アサヒタウンズは2010年廃刊。

23) 色川大吉編『多摩の歴史散歩』朝日新聞社、昭和50年

アサヒタウンズが連載した「多摩の歴史散歩」を編集したもの。

「これが凌霜館だったという物置のような建物が現町田市野津田町の並木に残っている」の文章が加筆されている。

⇒移築後の写真を掲載。市史・自由民権資料館図説等で掲載。大正2年時に売却した凌霜館が移築され利用されていたものと判断できる。

24) 『町田市史』下巻 昭和51年

凌霜館についての記述はあるが、所在地の明記はない。移築後の写真を掲載(アサヒタウンズ提供とあり)。

25) 『町田の歴史をさぐる』昭和53年

凌霜館についての記載、写真の掲載あり。巻末に文化財マップがあり、現資料館の場所に「凌霜館旧跡」が図示されている。

26) 『町田の歴史をたどる』昭和56年

移築後の凌霜館写真を掲載、すでに取りこわされている旨の記載あり。

27) 「昭和60年第2回定例会市議会会議録」昭和60年6月11日

萩原康好議員「自由民権運動の有力な指導者であり、石坂昌孝先生と並ぶ村野常右衛門先生が当時の青少年の心身の鍛練、錬磨の場として凌霜館がつくられ、そこにあつたところであります」

⇒萩原議員は、現若竹幼稚園理事長、野津田(資料館近隣)に居住されており、青年団活動についての聞き取り調査に協力していただいた方でもある。

28) 「凌霜館跡」碑文 昭和61年6月

「広さ二十坪(六六平方メートル)ほどの凌霜館を建てた場所とある」

⇒面積については色川氏の記述を参照している可能性あり。ただし、当時の学芸担当新井氏に確認したところ、移築後の凌霜館を確認している(撮影している)とのこと。

29) 『村野廉一回想記』昭和62年

村野常右衛門の長男廉一の没後妻喜代によりまとめられた。「自由民権資料館の建設」の項目に以下の記載あり。

「順三、婉子夫妻は、昭和六十年自由民権百年祭を記念して、祖父村野常右衛門に由緒ある「凌霜館」跡地を町田市に寄付を申出た。

これに対し大下勝正市長は市議会の議決を経て、この地に自由民権資料館を建設された」